

マルメ研修を終えて

私にとって2回目となるマルメ研修が終わりました。1回目は、2年前でまだ2年しか経っていませんがどうしてもあの感動が忘れられず今回も参加をお願いしました。今回は、1度参加した人も参加していいとの熊谷先生からお許しをいただきましたので当院からは9年前の第1回マルメ研修に参加した院長と初参加の衛生士2人と4人での参加となりました。スウェーデン・マルメの風景は2年前と変わらず美しく緑豊かでまた見る事が出来た喜びを噛み締めていました。またマルメ大学に登校すると今回は前の小さな教室ではなく木彫の美しい講堂で講義を受ける事が出来ました。2年ぶりにお会いした Dan Ericson 先生をはじめ、沢山の講師の先生方は全くお変わりなくユーモアたっぷりに講義をしてくださいました。少し冗談がエスカレートし岩上さんが通訳に困っているような場面もありました。しかし内容は2年前の内容がブラッシュアップされており、スウェーデンの歯科医療がまた大きく進歩していることを知りました。最初に Dan Ericson 先生から今回の講義のテーマは、「糖と加齢のコントロール」だとお話がありました。砂糖を食べるとカリエスは出来るが、脳は喜ぶ。体は太る。カリエスを防ぐためにはやはりフッ素が必要で1日2回のフッ素を使用すれば5回の砂糖摂取までは防ぐ事が出来る可能性があること。また、口腔内の事だけに留まらず、全身疾患との関連も考え、歯科が患者さんの全身について介入し健康について考えアドバイスが出来なくてはいけないこと。そのためには自己管理・ホームケアも大切である事を患者さんに理解してもらうための患者教育を個別化し、しっかりやらなければいけないことなど。また医療従事者と患者が Win Win の関係を築くことが必要な事を教えていただきました。スウェーデンでは治療方針を決まる時には患者教育も健康保険に含まれ、患者教育が得られるならばエナメル象牙境を超えても(サリバの結果が良ければ)そのままドリリングしなくて済む可能性が広がります。天然歯のすばらしさをしっかり伝え教育が出来る環境づくりこそ必要だと痛感しました。また2年前の講義であった人頭払いシステムが着実に根付きスウェーデンの国民に浸透しているのに驚きました。スウェーデンの歯科医療は、2年間でこんなに進んだにも関わらず日本ではまだまだ皆保険制度とのバランスをとりながら治療を行ない全く前に進んでいない状況をさみしく感じました。当院も9年前に院長がマルメ研修に参加したことから始まりました。最初は、システムを真似するところから始め2度改装、増築し1年半前に移転しました。そしてひるま矯正歯科から OP ひるま歯科矯正歯科へと生まれ変わろうとしています。まだまだ力不足でもがき苦しんでいる最中ではありますが、色々な障害を乗り越え熊谷先生がつくってくださった歯科医療をなんとか日本でも伝えて行かなくてはならないと強く思っています。近い将来に日本の歯科がスウェーデンと肩を並べる事が出来るように今出来る事からやるのではなく、なくやらなければいけない事を日々やっつけていこうと思っています。また今回でスウェーデン

研修の引率が最後となるとおっしゃっていた大竹社長。またオーラルケアの方々、岩上さん、西先生、名鉄観光の清田さん、大洞さん本当にお世話になりました。なんの不自由も感じる事がなく1週間の研修が終了された事を感謝いたします。ありがとうございました。